

湊川新聞

兵庫県立
湊川高等学校
発行



「〇〇はこころ」

学校長 小池 孝



前号で書いた映画「あん」と「きみはい子」を元旦

にパルシネマの2本立てで観てきました。監督は河瀬直美と呉 美保（おみほ）で、足を運んだ価値がありました。「あん」はどら焼き屋を舞台に、訳ありで働く雇われ店長千太郎（永瀬正敏）、突然働きたいと現れたとびきり美味しい粒あんを作る老女徳江（樹木希林）、常連客で常に一歩引いた感じの中学3年生ワカナ（内田伽羅・樹木希林の実の孫）。ハンセン氏病を背景の一つに捉えながら、それだけではなくそれぞれが抱える生きにくさ、いくつもの人間模様が絡み合いながら静かに展開していく映画でした。「あん」はほんの少し無理を感じるところもありましたが、演技

人の力で十分にカバーできていたと思います。今年2月から全国82の大手映画館でアンコール上映されていることからこの映画の力を感じます。ところで、やっぱり樹木希林さんは抜き出ていました。そこには徳江を演じた樹木希林は居なく。徳江は樹木希林、樹木希林は徳江でした。奇しくも数日後の1月5日、(株)宝島社が新聞（全国紙4社）に企業広告「死ぬときぐらい好きにさせてよ」を見開き1ページ全面に掲載しました。森の中のせせらぎ、静かな流れに仰向けで浮かぶドレス姿の樹木希林。微笑んだ表情とわずかに開いた目。生きているのか死んでいるのか？画家J・E・ミレーが「オフィリア」をモチーフに撮影されたもので、その写真の隅には「死ぬときぐらい好きにさせてよ」のタイトルと数行の文章。勝手に、「あー、つながっている」と思っていました。撮影の後日談等がこれも秀逸。《記

者が》「こんな表情で私は死を迎えられるのかな、と自問しました」と感想を伝えたら、樹木さん、面白そうに「あら、私なんて絵画の顔部分だけ、私のオバアサン顔に差し替えるパロディー企画だと思ったの。新聞を見た時は『いやだなあ、目開いて死んでる』なんて思ったわ」と大笑いした《（毎日新聞2月3日の記事から抜粋）。自然体の樹木さんらしさに溢れていました。樹木さんは『生きていくのも日常、死んでいくのも日常』そういう事を伝えるのも、死んでいく者のひとつの役目（仕事）「・・・それは当たり前になつてくるもので、自分が生きたいように死んでいきたい。最後は、もともと宇宙の塵（ちり）になつて。そんな気持ちでいるんです。」とも言っています（宝島社のWeb掲載から抜粋）。「きみはい子」は、新米中学教師岡野（高良健吾）と担任するクラス

の生徒や保護者、子どもを連れて近所の公園に通う母親雅美（尾野真千子）とそこに集う母親達、軽い認知症を抱える独居老人あきこ（喜多道枝）と自閉症の小学生。この三話三人が直接つながること無く、同じ町で、それぞれの話が入れ替わりながら展開します。これもどちらかとい

えば静かに流れていく映画でしたが、観ている間中湊川高校の生徒や保護者の方、先生方には是非観てもらいたいと思いました。観る人ごとに随所で自分を投影してしまうと思います。映画は終盤にむけ、共感から理解、負の連鎖の裁ち切りから支え合い、そしてその先へつながって行くことを無理なく描いています。思えば、タイトルの「きみ」は私でありあなたであり、人間は、自分を人を大切にできるといふ思いが心の底にしみ出てくる映画でした。相手を通して自分を見つめ直す。そこから共感や理解が始まるという思いにもいたった映画でした。役者はみな素晴らしいのですが、中でも櫻井弘也役の加部亜門を始めとする子役達と脇役達がみんなとても素晴らしいことも特筆ものでした。長々語りましたが、正直に言うと紙面が足りません。きつかけになる文言はあちこち切りばめました。スマホで検索！し、そこから先は是非本物に触れて下さい。映画でも、絵画でも、舞台でも、本でも、料理でも。文化を楽しめるのは人間だけ、かならずあなたの生活を豊かにしてくれます。スマホだらけの電車の中、本を開いている人ってかっこ良くないですか。





(第68回卒業証書授与式)

学年だより

1年

「だまされた猫になるな」

是非とも君たちに身につけてほしいことがあります。

それは、「人の話をよく聞くこと」です。

勉強でも、習い事でも、仕事でも、うまくいくための基本は、話をよく聞くことだと思います。話をよく聞いて、何が大切なのかを考えてから、

練習したり努力したりするのです。まずは、相手の言うことをしっかりと聞く習慣を身につけましょう。

何よりしっかりと聞いていないと損をします。

今年は、申年ですが、「ねずみ・うし・とら・うさぎ・りゅう・へび・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・いのしし」と十二支の中に「猫」がなぜ入っていないのでしょうか。

「元日の朝、新年のあいさつに、一番早く来た者から十二番目の者までは、順にそれぞれ一年の間、動物の大将にしてやろう」という神様のお話を、猫はしっかりと聞いていなかったからです。神様のお話をしっかりと聞いていないから、猫は、ねずみにだまされたのです。

話をしっかりと聞かないと、この話の猫のように、だまされ損をしてしまいます。くれぐれも猫のようにならないよう、君たちも、是非、人の話をしっかりと聞きましょう。ちなみに、だまされた猫は今でもねずみを追いかけています。



(地域の人材に学ぶ・水彩画教室)

2年

3年生へ向けて

昨年の4月から2年生としての生活が始まりましたが、あつという間に1年が過ぎ2学年が終わりを迎えるようとしています。1年間で振り返ると、1クラス32名でスタートし、初めは慣れないこともあったかと思いますが、普段の授業や歓迎遠足、校内生活体験発表会、球技大会、文化祭など様々な行事を共にすることでクラスが一致団結していったよう

に思います。数多くの思い出と共にそれぞれにとって成長の多い1年間だったと思います。

本日は2年生最後の登校日である終業式があり、成績表をもらったと思います。2年生が始まった頃はそろそろ自分の卒業後の進路のことを考えていかなければならないと言いました。しかし来年度、3年生になると3卒の生徒は卒業後の進路を決めなくてはなりません。進路を「考える」と「決める」とでは全然意味が違ってきます。なぜなら、ただ考えることと実際に考えて決断し、行動に移すのではまったく難しさ、苦労の度合いが変わるからです。私は自分の人生は他人に左右されることなく、自分で決めるべきだと思っています。みなさんも人生に一度しか来ない高校3年生を最後までまじめに頑張ることも良いし、自分が好きなことを思い切り楽しんで終えるのも良いと思います。それは自分で判断してください。将来高校生活を振り返った時に、みなさんにとって高校生活がとても充実していたと、胸を張って言えるような1年間になるよう悔いのないよう頑張ってください。



(地域の人材に学ぶ・インナーマッスル体操)



3年

3年間をふりかえって

今振り返ってみると、3年間はあつという間の出来事だったように思います。69回生のみなさんはあつという間に3年生に進級し、あつという間に卒業式も終わり、あつという間に社会人や大学生、そして4年生になったような気がします。3修制課程を無事に修了された17名のみなさん、改めてご卒業おめでとうございます。そして来年度には4年生

4年

「高校卒業」

に進級されるみなさんも本当にお疲れ様でした。勝手な想像ですが、ここまで来るのは楽だった!という人は意外に少ないのではないかと思います。勉強のこと、友達のこと、アルバイトのこと...みなさんは多くの悩みを抱えながら、3年間で過ごしてきたと思います。しかし同時に、たくさんのお楽しみや遣り甲斐とも向き合ってきたのではないのでしょうか。試練を乗り越え、喜びを仲間と分かち合うことで、とても短く感じるぐらいの充実した3年間を送ることができたのではないかと思います。そして湊川高校での経験は、みなさんのこれからの人生にきつと活かされると信じています。卒業生のみなさんも、在校生のみなさんも、どうか自分を信じて頑張ってください。そして楽しい思い出の数々、本当にありがとうございました。

私は湊川高校へ赴任して「高校卒業」の重みを初めて知りました。午前中や放課後の遅い時間に働きながら登校していくことは決して簡単な

ことはありません。学校生活では「授業や定期テストをしつかり受けること」、「体育祭・文化祭などの学校行事をクラスや学年、生徒会のみなどで協力して行っていくこと」、他にも「部活動やボランティア活動」など様々なことをこなしていかなければなりません。仕事と学校生活を両立していくためには強い意志が必要です。

湊川高校に入学してきたみなさんが3年間・4年間苦労して「高校卒業」を成し遂げて得るものは何でしょうか。それは、自分の未来への大きな可能性であると思います。就職や進学など「高校卒業」で広がる可能性は想像以上に大きいものです。私が湊川高校で担任をした卒業生のほとんどは、高校を卒業しなれば行けなかった進路に進み活躍しています。卒業式の日には涙が出るほど感動するのは、高校卒業までに大変な思いをして自分たちの未来のために一所懸命努力したからだと思います。

在校生のみなさん、もう一度自分がなぜ高校に入学したのか考えてみてください。誰のためでもない自分自身の未来のために最大限の努力を

していってください。



(卒業生を送る会・ボーリング大会)

保健室だより

みなさんは今年何回笑いしましたか?友達と話しているとき、相手は素敵な笑顔を見せてくれると、それだけで楽しい気分になってきますよね。笑顔には、周りの人を元気にする力があるようです。最近では「笑い」により、免疫力がアップすると研究結果も報告されています。よく笑う人ほど病気になりづらいとい



うことです。まさに『笑う門には福来たる』ですね。4月から始まる新年度も笑顔を咲かせて健やかに過ごしてください。

1月

風邪、インフルエンザが流行する時期。換気の大切さについて。低温やけどの注意喚起。

2月

ストレス度チェックとストレス解消法を紹介。乾燥しやすい冬、皮膚の乾燥を防ぐためのポイントを掲載。

3月

3月3日の耳の日にちなんで、ヘッドホン難聴にならないために、イヤホン・ヘッドホンを使用するときの注意を掲載。

今年度の保健室利用状況の報告、四月から始まる定期健康診断の日程のお知らせ。

健康診断は年1回の大切なものです。来年度は座高の計測がなくなり、新しく、運動器の検査が加わります。欠席や未提出のないように注意してください。



(同窓会入会式)

給食だより

栄養をしっかりと摂るために

春休みに入り、アルバイトをしたり、友達と遊んだりして、一日三食をとることが難しくなると思います。そうになると、十分な栄養を摂ることができません。栄養は元気に過ごすためには、必要不可欠です。しかし、一日三食が難しいのも現状ですよね。そこで、昔ながらの日本型の食事「一汁三菜」を一日一回は心がけるようにしてみてもいいでしょうか。

「一汁三菜って何？」と思う人も

いるかもしれません。一汁三菜とは

昔ながらの日本型の食事です。詳しくいうと、ごはんは汁物、おかず三種（主菜一品、副菜二品）の食事をさします。ごはんはエネルギー源となる炭水化物を、汁物で水分を、おかずでその他の栄養素をバランスよくとることができます。多くの栄養素を交互に摂ることで、消化や吸収がよくなるのが期待できます。このおかず三種は食材や調理方法がなるべく重ならないように心がけましょう。自分で全て調理するのはなかなかできないと思うので、まずは惣菜などを活用し、少しずつ調理していきましよう。その第一歩として、サラダ一品から挑戦してみてもいいでしょうか。そして、幅を広げて他の料理にも挑戦していきましよう。栄養をしっかりと摂って、新年度も元気に学校に来てくだいね。

編集後記

冬の寒さも日ごとに和らぎ、梅の花も咲きほころぶ春の暖かさを感じる今日この頃となりました。しかし、まだまだ寒くなる日もあるみたいですので、体調管理は各自しっかりと

しましう。

さて、いよいよ三学期の終業式を迎えることとなりました。先日行われた第68回卒業式はどうでしたか。とても親近感のわくアットホームな卒業式でした。そして、卒業生にとっては4年間、もしくは3年間の学校生活の集大成となります。卒業生一人ひとりが深い思いをもった旅立ちの日となりました。在校生のみならず1年後、2年後、3年後の自分の卒業式の姿を思い浮かべ、気持ちあたらに来年度の学校生活をがんばりましよう。

そのためには4月8日の新学期始業式から良いスタートがきれるように春休み中の生活を大切に過ごしましう。



(卒業証書授与式)

